

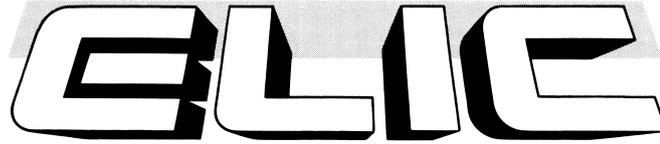
電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

2018年9月10日

No 369

発行者：ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会



1部100円

【電機大手の業績をみる】

＜見せかけの営業利益増＞

国際会計基準（IFRC）を適用することで、売却益やその他の収益を営業利益に含めてもよいことから、営業利益が水増しされています。その典型が、富士通とパナソニックです。富士通は、事業譲渡や事業再編により売上高が550億円減収となり、本業での営業利益も48億円の赤字になっています。しかしながら、退職金制度の見直しにより919億円の営業利益が計上されています。これは、確定給付年金からリスク分散型年金への移行に伴って清算益が生じた為としています。パナソニックも、4つのカンパニーのうち3つが減収となっています。それを補ったのが、名古屋市の工場跡地の売却益200億円を組み込んだことによるものです。

＜日立の営業利益増は構造改革によるもの＞

日立の営業利益増は、情報・通信システムの寄与分によるところが大きい。従来までは、営業利益に占める割合が10%程度でしたが、18年には25%にも伸びています。これは、不採算部門からの撤退や切り捨て、人員削減等を行ってきた構造改革によるものです。

＜シャープは大幅な増収増益＞

シャープは、売上高が5.4%増で、コスト削減などに取り組んできたこともあり営業利益が45%増の248億円に達し、携帯事業や白物家電も好調です。液晶テレビ事業では、欧州やアジアで伸長し、カメラやセンサモジュール他半導体などの独自デバイスの売上も伸びています。

＜低迷する東芝・NEC・沖電気＞

(1) 東芝は、営業利益が7億円にもかかわらず、最終益が1兆167億円にもなっています。純利益の巨額な額は、メモリ事業の売却益による

(第一四半期の各社業績)

単位億円

企業名	売上高		営業利益		
	今期	前期比	今期	前期比	利益率
日立	21,658	4%	1,481	12%	7%
東芝	8,423	△7%	7	△95%	0%
NEC	6,130	5%	△107	-%	-%
富士通	8,677	△6%	796	1524%	9%
三菱電機	10,509	2%	615	△18%	6%
パナソニック	20,087	8%	1,000	19%	5%
シャープ	5,338	5%	248	45%	5%
富士電機	1,958	13%	64	129%	3%
沖電気	889	△2%	△8	-%	-%
ルネサスエ	2,035	3%	230	145%	11%
安川電機	1,282	19%	172	30%	13%

(安川は会計の末日変更の為ずれがあります)

ものです。しかしながら、セグメント別では、かつての主力といわれたエネルギーシステムでは、売上高が849億円減、43億円の営業赤字となっています。(2) NECでは、前年度から営業利益が37億円改善したものの、107億円の赤字となっています。5つのセグメントのうち3つが営業赤字となっています。(3) 沖電気でも、営業利益が昨年度より30億円改善したものの、8億円の赤字となっています。セグメント別では、メカトロニクス(ATM)と情報通信が依然として赤字になっています。プリンタ事業ではプラスに転じ、EMS事業でも伸長しています。

今月号の紙面

- ①電機大手の第一四半期業績見る
- ②第31回電機懇談会の情勢分析
- ③第31回電機懇談会の活動方針
- ④日立労組ソフト支部大会で発言
- ⑤NECリストラ反撃宣伝第3弾
NEC懇が「年次総会」開催
- ⑥ラプラス「平和活動」藤崎さん
- ⑦電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧電機総会と記念レセプション
からむすの普及を。集積回路